

5. 単元指導計画 (全8時間)

時	1	2	3	4
ねらい	具体的な操作活動を通して、等分除の意味を理解し、除法の式で表すことができる。	等分除の場面では、答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算ができる。	式から等分除の問題をつくることができる。	本時
学習活動	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>袋の中のあめを3人で分けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3人分だから紙皿を3枚置くんだな。 (袋に手を入れて) 適当に取って3個, 5個, 4個に分ける。 それなら他にも分け方は沢山ある。でも数が違うと、けんかになるよ。 <p>2. 課題をつかむ。(個人追究)</p> <p>同じ数ずつ分ける方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> お皿に1個ずつあめを配っていけばいい。1回配ると3個なくなるよ。 2回目, 3回目, 4回目まで配れる。 1回配るたびに3個ずつなくなる。 12このあめを3人で同じ数ずつ分けると、一人分は4こになった。 <p>3. 式のかきかたを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> $12 \div 3 = 4$ 文で書くと長いけど、式でかくと短くて便利だな。 <p>4. 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 人数分に同じ数ずつ分けるときは、人数分のお皿に1個ずつ配る。 同じ数ずつ分けるときは、わり算だ。 <p>5. 評価問題を解く。</p>	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>○このあめがあります。3人で同じ数ずつ分けます。一人分は何こになるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 12このときは4こだった。 $12 \div 3 = 4$ $9 \div 3 = 3$ 9このときは3こだ。 $9 \div 3 = 3$ $12 \div 3 = 4$ 15このときは5こだ。 $15 \div 3 = 5$ $15 \div 3 = 5$ あれ?カードを並び替えると3の段の九九が見えてくるよ。 でも、3×4じゃおかしいよ。4個ずつ \times 3人分だね。 <p>2. 課題をつかむ。(個人追究)</p> <p>九九を使って1人分を求めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> $3 \div 3 = 1$ $6 \div 3 = \square$ $\square \times 3 = 6$だから $\square = 2$ $6 \div 3 = 2$ $18 \div 3 = \square$ $\square \times 3 = 18$だから $\square = 6$ $9 \div 3 = 3$ $\square \times 3 = 3 \times \square$だから3の段で見つけられる。 $12 \div 3 = 4$ 24このあめを4人で同じ数ずつ分けると一人分は何個でしょう。 $15 \div 3 = 5$ $24 \div 4 = \square$だから、4の段で考える。 $18 \div 3 = 6$ $4 \times \square = 24$だから、$\square = 6$だ。 $27 \div 3 = 9$ <p>3. 本時のまとめ</p> <p>1つ分を求めるときは、いくつ分の段の九九で答えを見つける。</p> <p>4. 評価問題を解く。①35このクッキーを7人で等分する。 ②72このチョコを9人で等分する。</p>	<p>1. 問題を読み取る。</p> <p>○\div■の式になる問題をつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> はじめに、$\circ \div 4$の問題をつくりましょう。 割る数が4だから4人で分けるということ。 分けるものは、何でもいいのか。ジュースやリボンでもいいのか。 かさや長さも分けることができる。 ○は4でわれる数だから、4の段の答えになる。 たとえば、「8dℓのジュースを4人で同じかさに分けると、1人分は何dℓでしょう。」という問題 <p>2. 問題づくりに取り組む。</p> <p>○\div4の問題をヒントにして、○\div■の問題を作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①式 } の順でつくる。 ②絵 ③問題 <p>3. 作り終わったら、友だちと解き合う。</p> <p>4. 評価活動</p> <p>○問題を作れましたか。</p> <p>○「なるほど。」と思った友だちの問題はありましたか。 どんなどころに、「なるほど。」と思いましたか。</p>	
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 袋から1個ずつ取り出して配る操作活動をし、全体の数\div人数=1人分で立式している。(知識・理解) <p>評価問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 等分除の問題を立式し、その除数の段の九九を使って1人分を求めている。(表現・処理) <p>評価問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がかいた式に対応する具体的な場面を絵や文に表している。(表現・処理)・身の回りから除法で表される事象を進んで探し、数量の関係を除法の式に表している。(関心・意欲・態度) <p>作問</p>	

時	5	6	7	8
ねらい	包含除の場面でも、答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算ができる。	式から包含除の問題をつくることができる。	12 ÷ ■ のわり算で表される様々な場面を整理していくことを通して、1で割ることの意味を理解し、等分除と包含除の相互関係に気付くことができる。	0をわる計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。
学習活動	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>○このあめがあります。1人に■こずつ分けます。何人に分けられるでしょう。</p> <p>■が3のときを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12このときは4人だった。 ・9このときは3人。15このときは5人だ。 ・今度も3の段の九九が見えてくるよ。 ・3こずつだから、3×□のいくつ分を求めるんだ。 <p>2. 課題をつかむ。(個人追究)</p> <p>九九を使っていくつ分を求めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24このあめを4こずつわけるときを考えましょう。 ・4×□=24だから、4の段で考える <p>3. 本時のまとめ</p> <p>一つ分を求めるときは、1つ分の段の九九で答えを見つける。</p> <p>4. 評価問題を解く。</p> <p>①24このクッキーを76個ずつ袋に入れる。</p> <p>②180の水を20こずつペットボトルに入れる。</p>	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>○÷■の式になるいくつ分を求める問題をつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、○÷4の問題をつくりましょう。 ・割る数が4ということは、4ずつに分けるということだ。 ・分けるものは、かさや長さでもいい。 ・○は4でわれる数だから、4の段の答えになる。 ・たとえば、「32cmのリボンを4cmずつ分けると、何人に分けられるでしょう。」という問題 <p>2. 問題づくりに取り組む。</p> <p>○÷4の問題をヒントにして、○÷■の問題を作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①式 } の順でつくる。 ・②絵 } ・③問題 } <p>3. 作り終わったら、友だちと解き合う。</p> <p>4. 評価活動</p> <p>○問題を作れましたか。</p> <p>○「なるほど。」と思った友だちの問題はありましたか。どんなところに、「なるほど。」と思いましたか。</p> <p>・自分がかいた式に対応する具体的な場面を絵や文に表している。(表現・処理)・身の回りから除法で表される事象を進んで探し、数量の関係を除法の式に表している。(関心・意欲・態度) 作問</p>	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>12このあめを同じ数ずつ分けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何人で分けるの？ ・何個ずつ分けるの？ ・もし、■人で分けるだったら、式はできそうですか。■こずつ分けるでも、式ができますか。 <p>2. 課題をつかむ。(個人追究)</p> <p>(1) ■人で分けるときの式をつくらう。</p> <p>(2) ■こずつわけるときの式をつくらう。</p> <p>(1) ■人で分ける (2) ■こずつわけると</p> <p>12 ÷ 2 = 6 12 ÷ 2 = 6</p> <p>12 ÷ 3 = 4 12 ÷ 3 = 4</p> <p>12 ÷ 4 = 3 12 ÷ 4 = 3</p> <p>12 ÷ 6 = 2 12 ÷ 6 = 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12人で分けると ・1こずつ分けると 12 ÷ 12 = 1もある。 12 ÷ 1 = 12 ・じゃあ、1人で全部もらう ・12こを全部もらうのは、 12 ÷ 1 = 12もある。 12 ÷ 12 = 1 <p>・あれ？(1)の12 ÷ 2 = 6と(2)の12 ÷ 6 = 2は、同じことだよ。</p> <p>3. 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1でわるのは、1人でもらうことや1こずつわけること。 ・意味が同じとき、わる数と答えが逆になっている。 <p>4. 評価活動</p> <p>・1でわる除法の問題場面を文で表し、答えを求めている。(知識・理解) 評価問題</p>	<p>1. 問題をつかむ。</p> <p>○このあめがあります。3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何こでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○が6なら6 ÷ 3 = 2 ・○が3なら3 ÷ 3 = 1 ・○が0だったら式と答えはどうなるでしょう <p>2. 課題をつかむ。</p> <p>0 ÷ 3の答えを見つけてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0このあめだから、0 ・6 ÷ 3 = 2 ・3 ÷ 3 = 1 ・0 ÷ 3 = 0 ↓ 1こずつへる ・何人で分けても0 <p>3. 本時のまとめ</p> <p>0をわったときの答えは0</p> <p>※残りの時間を使って練習問題に取り組む。</p>
評価標準と評価方法	<p>・等分除の問題を立式し、その除数の段の九九を使っていくつ分を求めている。(表現・処理) 評価問題</p>			

